

君ならゼットイできる！

内藤みゆき

地元岡山に英会話スクールを開校して6年半。赤ちゃんから大人の方まで幅広くレッスンする中で、レッスンの質を上げることによって生徒さんの潜在能力や可能性をもっともっと引き出したい。そして子供たちが夢と志をもって自分の力で世界へはばたくためのサポートができたらな〜とずっと描いてきたそのキャンパスに、コーチングが新たな夢の世界を描かせてくれている。コーチングの世界へ足を踏み入れてまだ1年にならないが、この間に指導者としても母としても信じられないような成果や数々の感動的なエピソードに恵まれている今日この頃。その中で最近のエピソードをひとつ。

新年明けた1月、生徒たち20名近くを英語のスピーチコンテストに出場させた。1年生のRくんは英語のセンスもなかなかなのに、シャイな性格ゆえに人前で発表が大嫌い。ところが今回は「ぜひやってみよう」と自分からエントリーし、早くから練習も始めてとても順調な仕上がりをを見せていた。ところが年末からずっと高熱が続いて体調を崩し通常レッスンもほとんど欠席。練習すらできない状態が続いていた。本人はもちろん両親も出場を諦めかけていたけれど、私は違った。「身体的に可能ならぜひ参加してほしい。逆境に負けず最後までなんとかやりぬいたという気持ちこそが次に繋がるはずだから。彼を信じよう！彼ならゼットイにできるから」私は心からそう信じて疑わなかった。そしてなんとなく自信のなさそうだった前日のレッスンでも「Rくん、先生は全然心配してないよ。だって君ならゼットイにできるから。大丈夫だよ！」と彼に伝えた。そんな私の心理を理解し、最後まで一緒にサポートしてくれた両親の存在も大きかった。

そして迎えた本番。大きな大きなステージに病み上がりの彼がたった一人で立った。第一声「Hi, I'm〜」なんて元気な明るい声！そして最後の一言まで立派にスピーチを終えたのだ。舞台袖の私がアツい涙をこらえることができなかったのは言うまでもない。彼を思い切り抱きしめてあげたかった。

数週間病気で苦しみ、身も心もどどん後ろ向きになっていった彼の気持ちを思う。今まで最も苦手にしてきたことの一つ。その逃げも隠れもできないステージで大きな壁に懸命に立ち向かっていったRくん。

「すごい突破。なんだか一段上がったな〜」息子のスピーチの直後、パパがそうつぶやいたらしい。ママからも「あわただしい日々の中で自分自身もつい『楽な方へ』流れがちだった。子どもたちに自分の姿を示しているよう。自らが『厳しい道』を選んで行くべきだなって思ったんです」と感想をいただいた。

Rくんにとって今回一番の支えになったのは「君ならゼットイにできる」とまわりのみんなが信じて疑わなかったこと。それが彼に勇気と自信を与えてくれたんだと思う。コーチングを学ぶ以前の私だったら…最後の瞬間まで子どもたちの力を信じることはできなかったかも。「無理しなくても次回があるじゃない」そう言って助け舟を出したかもしれない。でも「大丈夫、あなたならゼットイにできるわよ！」と毎回必ず後押しして下さるマイコーチのサポートに支えられて、自らの夢実現に向けてますます加速している私自身が証明しているように、人の能力や可能性にはきつと限界などないはずだ。自分の可能性に気づき新たな道を選ぶことが楽しくなってくると、人は変わる。子供たちならもっともっと潜在能力を秘めているに違いない。彼らが自ら何かを感じ、それを起爆剤として「自ら行動を起こしてくれること」、これに勝るものはない。

その可能性を引き出すのが良き指導者であり、良きコーチの存在なのだと、今回のRくんの堂々たる姿を見ながら身の引き締まる思いだった。